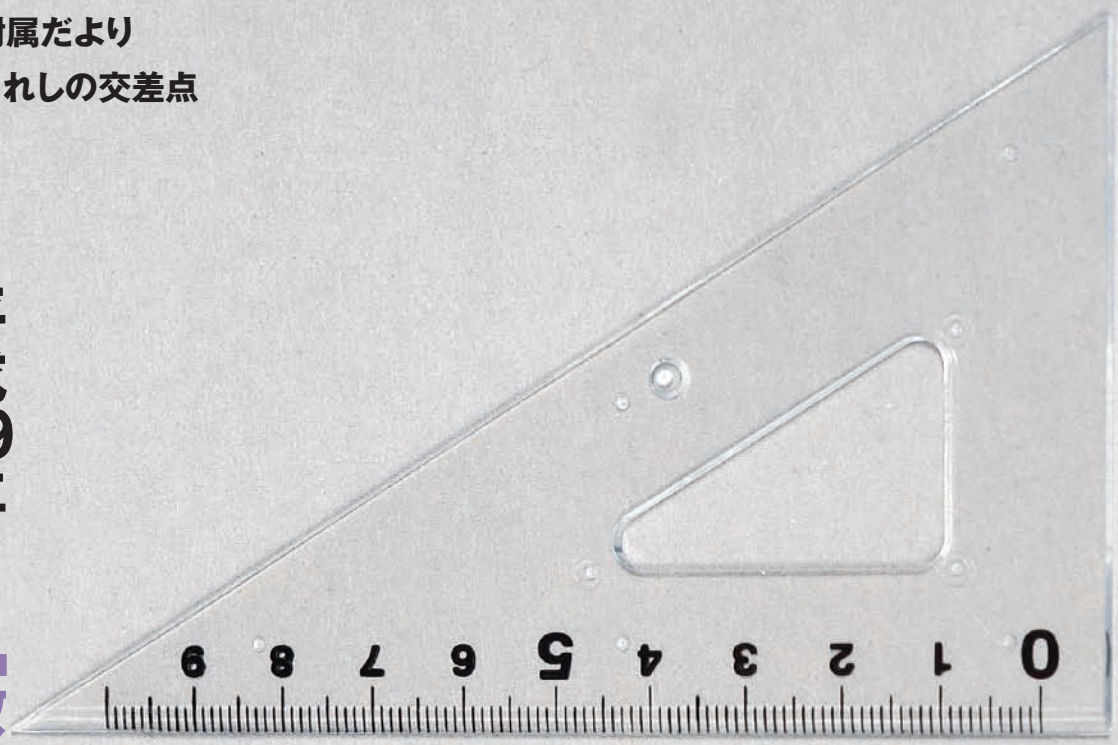
兵庫教育大学広報誌
http://www.hyogo-u.ac.jp

教育子午線
Kyoiku-Shigosen

February 2006
兵庫教育大学
vol.10

- キャンパス通信
- 附属だより
- うれしの交差点



- 教育最前線

より高度な専門性を持った教員の育成をめざして

～平成19年4月「教職大学院」の設置に向けて

- 日々是研究

上西一郎

- Watching ゼミ&講座

渥美茂明ゼミ

巻頭言

道徳教育の基盤性

道徳教育は、人間としての基本的在り方を育てるものです。従って、学校教育の全般において根底的な位置を占めています。

子どもが将来、世の中（我々の世界）で生きていく力を養う上では、他の人とのかかわり方、社会での自分の責任の果たし方などを身に付けていかねばなりません。また、これと同時に、その基盤となる自己中心性の克服と、他の人たちに対する互恵平等と信義の原則、さらには信頼と愛情の心を養っていかなくてはなりません。

そうした土台の上に立って、子どもが自らの独自固有の内面世界（我の世界）を大切にし、自分で満足し充足する生涯を生きていくようにならねばならないのです。こうした力を養う上では、自分自身を振り返り、自分自身と対話する習慣を身に付けると同時に、自らの心を揺り動かすものとの出合いを大切にし、自分自身の責任において生きていくように育っていってほしいものです。

こうした道徳教育は、単なる徳目主義でも体験主義でも、十分に展開することはできません。次の3つのレベルでの教育活動を有機的に相互関連させながら進めていかなければならないでしょう。

①感性・情緒のレベル

多様な体験と感動を通じ、実感の世界の深化・拡大を図ると同時に、感性そのものの陶冶に努める。

②習慣・規律のレベル

生活指導や学校行事・儀式等での指導を通じ、あいさつや生活規律、マナーなどの習慣付けを図る。

③普遍的価値のレベル

エピソード等の追体験や模擬的な価値葛藤の体験を通じ、自我関与した形で重要な価値の内面化を図る。

このような多層性を持つ道徳教育は、「道徳の時間」だけでなく、登校から下校までの学校生活の全体を舞台として展開されなければなりません。各教科・領域の授業場面での指導を含め、学校のあらゆる場面での教師と子どものかかわり方が、こうした道徳教育の視点から問い直されるべきではないでしょうか。

学長 梶田叡一（かじた えいいち）

Campus Topics

兵庫教育大学の動き

2005 10月 → 2006 1月

◎小野市と包括連携協定を締結

蓬莱務小野市長と梶田学長が締結書に調印。

昨年12月7日、小野市と包括連携協定を締結しました。小野市と兵庫教育大学が互いの重要性と連携協力の必要性を深く認識し、教育や文化、産業、福祉、まちづくりなどの分野で協力し合い、地域社会の発展と人材育成に寄与していくことをめざします。

10月

附属小学校「うれしのカーニバル」

1日
◎創立記念日
◎附属小学校「うれしのカーニバル」
1日~22日
◎公開講座「子どもの発達と家庭教育」(全4回)
3日~4日
◎学部3年次学生合宿研修
9日
◎附属幼稚園運動会

附属幼稚園運動会

11月

1日
◎ロゴマーク、マスコットキャラクター制定
3日~6日
◎公開講座「絵画制作」(4日連続)
3日
◎サイエンスショー
◎附属中学校「友嬉祭」
12日
◎平成18年度大学院入学者選抜試験(後期)
16日~18日
◎附属小学校6年生修学旅行
19日~20日
◎大学祭「嬉望祭」
22日
◎附属中学校研究発表会

附属中学校「友嬉祭」

12月

2日
◎平成18年度大学院入学者選抜試験合格者発表(後期)
7日
◎兵庫県小野市との包括連携協定の締結
20日
◎附属幼稚園第2学期終業式
22日
◎附属小学校、中学校第2学期終業式

1月

10日
◎附属幼稚園、小学校、中学校第3学期始業式
21日~22日
◎平成18年度大学入試センター試験
31日
◎学部推薦入学者選抜試験

大学祭「嬉望祭」

教育子午線
Kyoiku-Shigosen
February, 2006

Contents

04 教育最前線
より高度な専門性を持った教員の育成をめざして
~平成19年4月「教職大学院」の設置に向けて

08 日々是研究
著しく不足している子どもたちの「自然体験活動」
上西一郎(学校教育研究センター教授)

09 教育現場からの質問
教員の著書紹介

10 Watching ゼミ&講座
渥美茂明ゼミ(自然系教育講座)

11 卒業生からの手紙

12 キャンパス通信

14 附属だより
「子どもの学びを深める保育の創造」
—実践研究の構築をめざして—
名須川知子(附属幼稚園園長)

15 うれしの交差点

16 兵庫教育大学からのお知らせ

より高度な専門性を持った教員の育成をめざして

～平成19年4月「教職大学院」の設置に向けて

昨年6月に中央教育審議会が「教職大学院」設置の方針を打ち出し、それを受けて、兵庫教育大学では平成19年4月の設置に向けて準備を進めています。

教職大学院とは、現職教員の再教育や即戦力となる新人教員の養成を目的にした専門職大学院です。昭和53年に新構想大学として創設された兵庫教育大学にとって、教職大学院の設置は特別に意義のある取り組みであり、教員の資質向上のためのモデルを全国に示したいと考えています。

より高度な専門性を備えた優秀な教員を養成

いつの時代も、教員には教育者としての使命感と人間愛をはじめとして、一般教養、教科に関する専門的学力、教育の理念・方法、人間の成長や発達についての理解力、優れた教育技術など、高度な資質能力が要求されます。しかし、近年、教育を取り巻く社会状況は大規模かつ急激に変化しており、子どもたちの学ぶ意欲や規範意識・自律心の低下、社会性の不足、いじめや不登校の深刻化など、学校教育が抱える課題も一層複雑化・多様化してきました。

このような社会状況の変化や諸課題に対応するため、教員を〝高度専門職業人〟として捉え、優れた実践的能力のある人材の養成を担うのが「教職大学院」です。平成15年度に創設された専門職大学院制度を教員養成にも活用しようと、昨年6月に中央教育審議会が設置の方針を打ち出しました。

豊富な実習時間を設け実践力を高める

兵庫教育大学では、現在の大学院学校教育研究科に既設の専攻に加えて、高度教育実践専攻として教職大学院を設置します。「学校指導職コース」「授業実践リーダーコース」「心の教育実践コース」「小学校教員養成特別コース」の4コースを設け、修了生には専門職学位（教職修士）を授与します。

教育課程は、すべての院生が履修する共通科目、コースや分野ごとの選択科目、学校等での実習で構成し、必要修得単位数は50単位以上とし、修士論文の代わりに事例研究報告などを課します。

教職大学院では、指導教員の4割以上を実務家教員にすることが義務付けられています。一般の専門職大学院でのそれは3割以上ですから、いかに学校現場での実践を重視しているかが分かります。カリキュラムには、プロジェクトを中心とした演習や各種のインターンシップが組み込まれ、学校や教育行政現場での実習時間が多く確保されています。

実習では、院生は学校教員と協働し、アクション・リサーチなどを通して、学校教育現場が抱える課題の解決に取り組みます。また、昨年11月には教職大学院における教育環境整備の一環として「リエゾンオフィス」を設置。学校現場、教育委員会などでの実習に必要な学校フィールドや人材の確保、カリキュラム・授業開発などを行います。

高度な実践力や応用力を持った教員を養成する教職大学院は、兵庫教育大学が掲げる〝教育界のメッカ〟の実現に向けての具体的な一歩となります。

◆TEXT＝勝野眞吾（理事・副学長）

■専門職大学院制度とは

平成15年に創設。もともとは司法制度改革の一環として、法曹養成を行う法科大学院の設置が目的でした。教育の目的、教育内容、指導方法、教授スタッフ、修了要件、学位などを高度専門職業人養成に特化することが特色とされています。この制度を教員養成に活用したのが「教職大学院」です。法科大学院と同じく、特例的に固有名が付されており、教職大学院に対する社会的な期待の高さがうかがえます。

■現行の大学院制度との違い

専門職大学院制度の創設によって、現行の大学院制度における研究者養成と専門職大学院での高度専門職業人養成が教育機能面で明確に区分されます。兵庫教育大学では、既設の大学院の教育目的を「学校教育に関する理論と実践についての研究能力を持ち実践の場における教育の推進者となる教員の養成」とし、教職大学院のそれは「学校現場において、実践力、応用力などの高度の専門性を身に付けた指導的教員および学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成」とします。

教育最前線

担当教員が語る 教職大学院 各コースの目標と目的

究組織概念図

教育学研究科…24人

究科

教職大学院

専門職学位（教職修士）課程…100人

高度教育実践専攻

▶学校指導職コース……20人

▶授業実践リーダーコース……30人

▶心の教育実践コース……20人

▶小学校教員養成特別コース……30人
（長期在学制度を活用した3年コース）

現職教員

他学部卒業生

社会人

…160人

人数＝定員
⇦…主な受け入れ対象

高度教育実践専攻の人材養成

学校現場における実践力や応用力などの高度な専門性を身に付けた指導的教員、学校づくりの有力な一員となり得る新人教員を養成

学校指導職コース
加治佐哲也（かじさてつや）教授

校長や教頭には自律的で学校内外に開かれた学校経営を創造し、推進していく能力が、教育委員会の指導主事や管理主事には地域の特性や実態に応じた教育施策を企画・立案する能力が求められます。このコースでは、中堅層以上の教員を受け入れ、校長や教頭といった学校経営専門職、指導主事や管理主事などの教育行政専門職をめざす人材を養成します。学校経営や教育行政における専門性や実践力を身に付けさせることで、「教育的基盤」を持つ専門職の養成が効果的に行えると考えています。

授業実践リーダーコース
岩田一彦（いわたかずひこ）教授

学校現場で一定の教職経験を積んだ現職教員や教員養成系学部卒業生を対象に、①優れた実践的指導力を備え、②同僚や若年教員に対して指導的役割を果たし得るメンター教員として、③学校教育の抱える複雑かつ多様な諸課題に対して、積極的な実践改革へのリーダーシップを発揮できる教員の養成をめざします。

院生には、教育専門職ジェネラリストとしての共通基盤に立ちながら、専門的知識と確かな指導理論、優れた実践力・応用力を身に付けていただきます。

兵庫教育大学教育研

博士課程　連合学校

学校教育研

修士課程…200人

学校教育学専攻…80人
- ▶教育コミュニケーションコース‥‥10人
- ▶幼年教育コース‥‥‥‥‥‥‥‥10人
- ▶学校心理学コース‥‥‥‥‥‥‥20人
- ▶臨床心理学コース‥‥‥‥‥‥‥40人

特別支援教育学専攻…30人
- ▶心身障害コース‥‥‥‥‥‥‥‥20人
- ▶特別支援教育コーディネーターコース…10人

教科・領域教育学専攻…90人
- ▶言語系コース‥‥‥‥‥‥‥‥‥20人
- ▶社会系コース‥‥‥‥‥‥‥‥‥20人
- ▶自然系コース‥‥‥‥‥‥‥‥‥15人
- ▶芸術系コース‥‥‥‥‥‥‥‥‥15人
- ▶生活・健康コース‥‥‥‥‥‥‥20人

現職教員

他学部卒業生

特別プログラム(構想中)
- ▶海外支援教育プログラム
- ▶和文化教育プログラム

初等教育総合コース
(構想中)

学部4年+
修士2年の
6年一貫制

既設専攻の人材養成

学校教育に関する理論と実践についての研究能力を持ち、実践の場における教育の推進者となる教員を養成

学士課程　学校教育学部

心の教育実践コース
渡邉（わたなべ）　満（みちる）教授

「心の教育」とは、道徳教育や進路指導、生徒指導・教育相談、学級経営など、いわゆる「教科外教育」として位置づけられている分野の教育活動、地域における教育活動、学校や地域による家庭教育への支援活動などを総括したものです。これらの心の教育に効果的に取り組むための実践的力量を高めるとともに、「心の教育実践プログラム」の開発・実践指導においてリーダーシップを発揮できるスペシャリストの養成をめざします。現職教員と教員免許状を持つ大学卒業者を受け入れます。

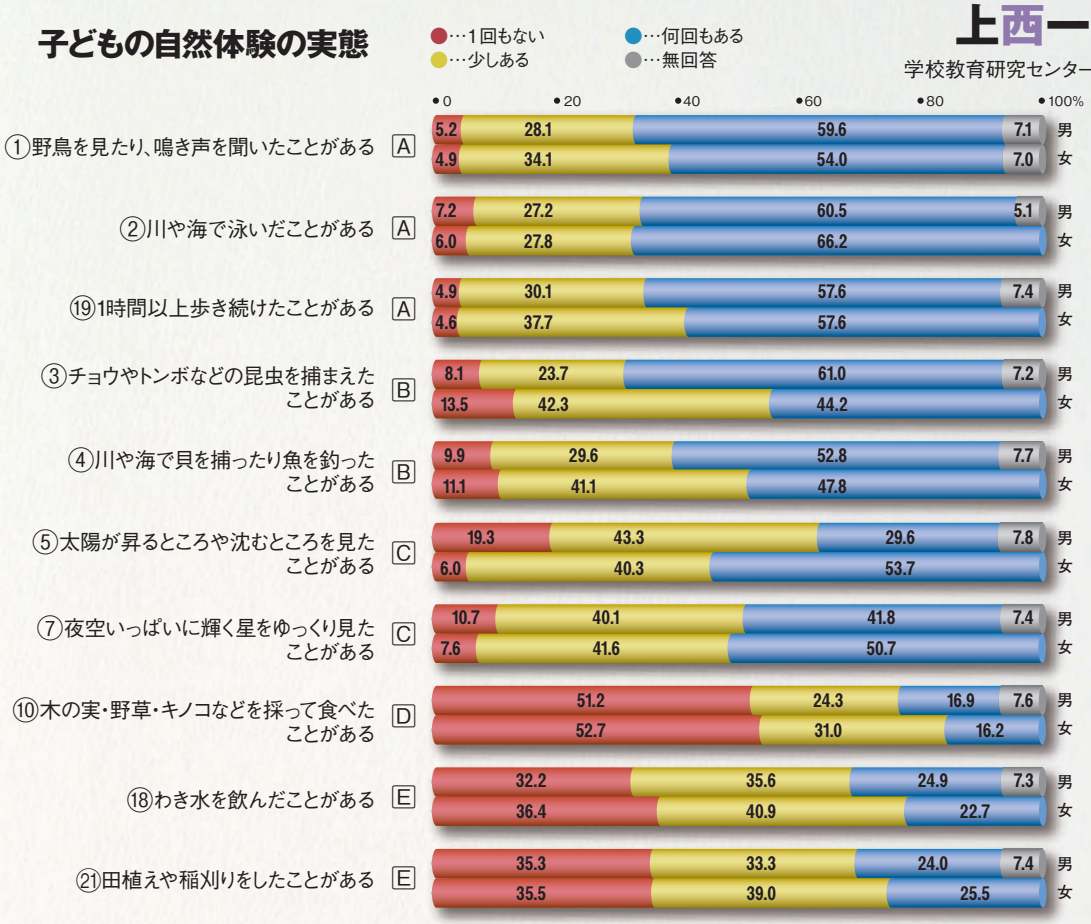
小学校教員養成特別コース
千駄（せんだ）忠至（ただし）教授

中学校や高校などの教員、教員免許状を持っていない大学卒業生や社会人を受け入れます。院生は本学の初等教育教員養成課程の科目を履修して、小学校教員第1種免許状を取得することはもとより、高度で実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの担い手として高い期待に応えられる教員を養成します。このコースのみ修業年限は3年間です。

著しく不足している子どもたちの「自然体験活動」

上西一郎（うえにしいちろう）
学校教育研究センター教授

子どもの自然体験の実態



A…男女とも50％以上が何回もあると回答した項目
B…男子の50％以上が何回もあると回答した項目
C…女子の50％以上が何回もあると回答した項目
D…男女の50％以上が1回もないと回答した項目
E…男女の30％以上が1回もないと回答した項目

私たちは学内外の教育関係者でプロジェクトチームを組み、平成14年度から3年にわたって「子どもの自然体験活動の指導に求められる学校教員の資質能力形成に関する研究」に取り組んできました。

その1年目、子どもの自然体験の実態を把握するため、22の質問と3段階の尺度を設定したアンケートを実施しました【グラフ参照】。回答者は、県内の小学5年生（自然学校体験者）男子1733人、女子1625人です。

調査の結果、Aの男女とも50％以上が何回もあると回答したのは①②⑲の3項目。Bは③④、Cは⑤⑦、Dは⑩でした。また、Eの男女の30％以上が1回も体験したことのないのは⑱と㉑でした。

平均値の比較で男子の得点が高かったのは①③④のほか、⑨「ロープウェイやリフトを使わず山に登ったことがある」、⑪「クモが巣を張っている様子を見たことがある」、⑬「自分の身長より高い木に登ったことがある」、⑭「山や野原でヘビに出合ったことがある」など、動植物に直接触れたり、活動内容がダイナミックなものが得点を集めました。

一方、女子では⑤⑦のほか、⑳「野菜や果物の皮を包丁でむいたことがある」、㉒「雪だるまを作ったことがある」といった静的な活動が目立ちました。

これらの結果と、平野吉直教授（信州大学教育）が11年に行った調査と共通した項目①②③④⑦⑨⑬㉑、⑥「太陽が昇るところや沈むところを見たことがある」、⑧「キャンプをしたことがある」について「ほとんどない」と回答した子どもの比率を比較してみると、㉑を除いて、本調査結果の比率は男女ともに低い値でした。数値を見る限り、子どもの自然体験は著しく不足していると言えます。

また、現在の教員や教員志望の学生も自然体験が不足していると指摘する教育関係者もいます。

教育現場からの質問 Q&A

アドバイザー
岸田恵津（きしだえつ）
生活・健康系教育講座助教授

Q 「食育」は学校・家庭・地域の連携が不可欠といわれますが、学校ではどのような取り組みが求められますか。

A 平成17年度から栄養教諭制度が始まり、食育基本法が制定されるなど、現在は〝食育ブーム〟とも言える状況です。食育の推進が精力的に多分野連携で行われるほど、その方向性や内容の明確化と共有が必要になります。

食育のねらいは、狭義の食生活改善や健康の維持・増進だけでなく、人間形成や食文化の形成・継承、社会、環境、経済とのかかわりまで広い視野を持って取り組むものです。

学校での食育については、「心身の健康」を中心課題と捉えつつも、栄養・健康にとどまらず、食農教育や環境教育、地域学習、消費・流通に関する学習などの視点からも取り扱い、「食」の持つ多様な側面に気づくような実施計画が求められます。そして、児童生徒が自ら考え、食の大切さを実感できるような教育方法を工夫しましょう。

指導にあたっては、教科、特別活動、総合的な学習の時間などを関連付けながら、それぞれの基本内容の定着を図り、発展的な学習へと進めてください。食べ方の基本は、家庭科や保健体育の内容を中心とし、食生活学習教材なども活用しながら、「食生活指針」の内容を踏まえたものが望ましいでしょう。

さらに、教師一人の視野や発想には限界があるので、できるだけ家庭や地域を巻き込み、さまざまな立場の人がかかわった取り組みにしてもらいたいと思います。その際、教師は全体を把握すること、また自らが「食」に関心を持ち、楽しいと感じることが大切です。

Books

教員の著書紹介

『教養としてのスポーツ人類学』

大修館書店・平成16年刊
編著者：寒川恒夫
著者：永木耕介（実技教育研究指導センター・助教授）
※第2部・第26項「柔道のルールと文化」を執筆

スポーツに凝縮・刻印されている文化と社会を文化人類学の方法によって読み解いたもので、民族スポーツ、国際スポーツ、過去スポーツ、武道、舞踊、遊び、養生、癒やし等々の行動と、それらにかかわる身体を異文化理解と自文化理解の展望の下に分析したものである。

例えば、第2部『スポーツ人類学のアンソロジー』の「柔道のルールと文化」（永木著）では、明治15（1882）年に日本の教育者、嘉納治五郎によって興され、今日に至るまで継承されてきた「柔道」の、特に国際化・グローバル化の過程でみられる変容やズレの問題について、競技ルールの視点から考察している。

『教師・学校・実践研究 人間教育の基盤を創る』

金子書房・平成17年刊
著者：梶田叡一（学長）

教師論、学校論、教育実践研究の方法論の三部構成。いずれの論も著者の長年の研究と教育実践者との交流から得られた体系的・実践的知識に裏付けられた、分かりやすいものばかりである。

戦後につくられ、今日に至っている教育理念、教師の在り方、学校の役割、教育研究者と教育実践者のかかわりなどへの固定観念を打ち破り、変革を求める論が印象に残る。言いっ放し、読みっ放しにできない、実践に役立つ本である。現職の教員や教員をめざす人、教育を考えるすべての人に読んでもらいたい。

（推薦人:藤井徳行・社会系教育講座教授）

※教員の著書は附属図書館で閲覧できます。詳しくは学術情報課☎0795-44-2062へお問い合わせください。

Watching ゼミ&講座

渥美茂明ゼミ

自然系教育講座

先生の口癖は「勉強し！」知識の泉のような研究室

◆執筆者＝楠本真也
大学院学校教育研究科
教科・領域教育専攻
自然系コース1年

渥美ゼミでは、カタバミの研究をしています。学問領域としては植物生理学に入ります。多くの人はカタバミがごく身近に生えている植物だということを知らないでしょうが、実はとても魅力的な植物です。普通、植物は上に枝を伸ばしますが、ゼミで扱っているV6という種類は側枝を水平に伸ばし生長する特性を持っています。

指導教員の渥美茂明教授は知識豊富。仕事と趣味を両立させることができ、とてもアクティブな先生です。口癖は「勉強し！」。私たちゼミ生は、分からない、知らないことは自ら補うことで、自らの知識にするということをこの短い言葉から感じ、受け止めています。

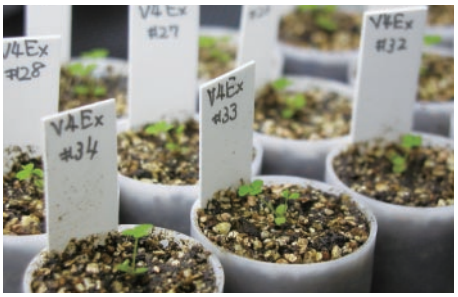
ゼミに所属する大学院生は2人。現職教員の山崎尚さんと、他大学からのストレートマスターである私（楠本）です。

滋賀県の小学校教諭である山崎さんは、兵庫教育大学出身で、学部生時代にも渥美ゼミで学んでいました。「カタバミ葉柄の環境応答と組織構造の研究」に取り組んでいて、実験やデータ整理、実験道具の作製に明け暮れています。気さくな山崎さんは現職教員という感じがせず、私と同じストレートマスターのような気分で接しています。

もう一人の院生である私は昨春、他大学の理工学部を卒業しましたが、教師になりたいと考え、大学院に入学しました。最近、ある疑問を持つようになりました。渥美ゼミは生物研究室でありながら、そうでない部分が存在するのです。毎日、生物研らしい会話があるのは当たり前のことですが、コンピュータや機械、経済などが話題になることもたびたびで、どこからともなく湧き出てくる知識の泉のような研究室なのです。

また、指導教員と学生の距離が他大学に比べて非常に近いように感じます。理系の大学や一学年の人数が多い大学では、教員と意見交換や会話をする機会が少ない上に、同じ部屋で研究をしません。渥美ゼミのような雰囲気の中で研究ができることは本当に恵まれていると感じています。

学部ゼミ生と大学院ゼミ生の友好的な関係はもちろん、他のゼミ生もよく研究室に出入りし、渥美先生を中心にとてもフレンドリーな研究室です。



研究対象のカタバミ

左から山崎さん、楠本、渥美教授、白石進さん（学部4年）

松本敏英（まつもと としひで）さん

明石市立大久保幼稚園教諭

西宮市出身。平成12年、学校教育学部教科・領域教育専修言語系コース（児童文学を専攻）を卒業後、附属幼稚園で臨時採用職員として勤務。翌年、明石市の幼稚園に着任した。

慣れないピアノに悪戦苦闘

幼稚園教諭になって5年目になります。幼稚園教諭をめざしたのは実習で幼稚園が一番訳が分からなかったことと、附属幼稚園で幼児教育の面白さ、奥深さに触れたからです。幼稚園に男性教諭がいるのはテレビや新聞などで少しずつ一般に認知されてきましたが、現状はまだまだ男性教諭は少なく、明石市の幼稚園では私が初採用です。出張や研修会に参加しても、何百人と女性がいる中で一人だったり、運動の講習会では更衣室がなかったりということもありました。

採用されてまず苦労したのがピアノです。今までピアノを習ったことがなく、大学の講義の課題曲くらいしか弾いたことがありませんでした。でも、どの幼稚園にも園歌があり、行事があります。そこで、すぐにピアノ教室の門をたたきました。今では少し弾けるようになりましたが、当初は曲をマスターしたころには行事や季節が過ぎ去っていたという感じでした。

今年度は32人のクラスを受け持っています。子どもたちと園庭を走り回り、大声で笑い合い、時には一緒に喜んだり、泣いたりしています。しんどいこともたくさんありますが、子どもたちとかけがえのない毎日を過ごせることにやりがいを感じています。

芝生の園庭は明石市も推奨しています

小南浩一（こみなみ こういち）さん

北陸大学助教授

昭和54年、大阪大学を卒業。兵庫県内の高校で社会科教諭を務めた後、平成6年に大学院学校教育研究科・社会系コース修了。8年、北陸大学に着任。主な論文は「大正デモクラシー期の高砂町政問題」「戦時下賀川豊彦の思想と行動」「粛正選挙下における政党とその支持動向」など。

過ちを繰り返さないための〝武器〟

現在、金沢市郊外にある北陸大学で、主に「日本近現代史」を教えています。

研究室にて

講義では1945年8月15日のアジア太平洋戦争の敗戦を破局の「終点」とすれば、その「起点」はどこに求められるであろうかという問題意識のもとで、時間軸を逆に授業を展開しています。

敗戦→対米英戦争→日中戦争→満州事変にいたる15年戦争です。

さらに日中戦争の「起点」を当時の日本人の中国観を一変させ、「その後の日本の質を規定した」（宮地正人・現国立歴史民俗博物館長）といわれる日清戦争に置いています。

このように1945年の敗戦の「起点」を、カメラをロングショットにして1894年の日清戦争までさかのぼる授業構成をとっています。当時の政治状況から他の選択肢は取り得なかったのか、どの選択肢が決定的なターニングポイントとなったかなどを問いかけながら、歴史的思考力を養い、歴史認識を豊かにすることをめざしています。

北陸大学には「未来創造学部」という全国でもユニークな学部があります。私は学生たちに歴史学は過去と同じ過ちを二度繰り返さないための〝武器〟として、未来を創造することにつながる学問だと話しています。

Letters From OB&OG

スポット通信 Report

言葉や国境を超えた交流の大切さを地域の子どもたちに伝えたい

大学院学校教育研究科
教科・領域教育専攻言語系（英語）コース1年
藤田真由美（ふじたまゆみ）さん

加古川市、吉川町（現三木市）、稲美町の中学校で英語教諭を務めた後、平成17年に大学院に入学。言語系コースのメンバーたちからは「ねーさん」と慕われている。

昨年7月、藤田真由美さんら、教科・領域教育専攻言語系（英語）コースの1年生、17人（留学生3人含む）が企画した『体験国際交流プロジェクト～目で、耳で、舌で感じる世界の国々～』が、学生委員会の「大学院生課外研究プロジェクト」※に選ばれました。

彼女たちは以前から、留学生との交流会〝English Time〟を定期的に開いており、このプロジェクトは地域の子どもたち向けの国際交流の場を設けたいとの思いから生まれました。

「私たちの合言葉は〝Over the Language（国境や言葉を超えた交流）〟。今の時代、テレビで世界各地の様子が分かりますが、それは一方通行の情報に過ぎません。私たちがめざすのは、人と人が顔を見合わせ、同じ体験をしながら、言葉や笑顔を交わす心と心の交流です」と藤田さんは話します。

これまでに3回の交流プロジェクトを開いてきました。最初は昨年10月。附属小学校の児童約50人を大学に招待し、オープニングセレモニーとして、タイの留学生と院生たちがタイダンスを披露しました。体育館と学生食堂を会場に、体育館ではイエメンのアラビア語講座、アメリカの生活や文化に関するクイズ、フィリピンの遊びと歌、韓国語講座と遊び、中国の蹴鞠、タイダンスの衣装の試着など、6カ国のブースを展示。子どもたちはそれらをスタンプラリー形式で見て回りながら、つかの間の世界旅行の気分を味わいました。一方、学生食堂では、中国の留学生が中心となって、水餃子作り体験を実施しました。

2回目は社町立鴨川小学校、3回目は同米田小学校へ出向き、タイダンスや中国語、蹴鞠講座などを催しました。ダンスの衣装に袖を通した6年生の男児は「めったにない経験ができてうれしい」と言ってくれたそうです。

小学生たちにタイダンスを披露しました

故国を指差すイエメンの留学生ハリルさん

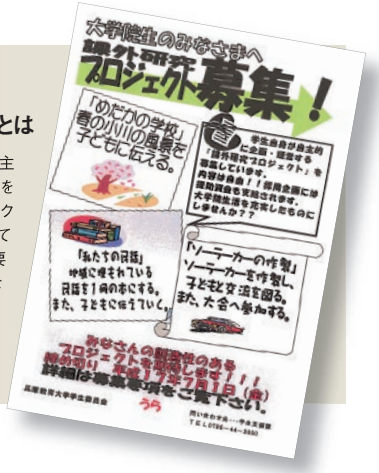
「児童の前で自分の国の話ができたことを誇りに思う」と話すのはメンバーの一人、タイの留学生ジャップさん。子どもたちにタイについて興味を持ってもらうことで、自身も故国の役に立っているような気持ちになると言います。

「プロジェクトを通して、心と心を通わせることの大切さをあらためて実感しました」と藤田さん。

これからも言語系コースの面々は、地域の子どもたちに〝Over the Language〟のメッセージを届けていきます。

※大学院生課外研究プロジェクトとは

大学院生（修士課程）が自主的に企画・運営し、創造性を発揮できる魅力あるプロジェクトを指し、学生委員会によって採択されれば、活動に必要な物品の購入資金や旅費などの補助を受けられます。平成17年度は19件の応募のうち7件が採択されました。



クラブ奮戦記

よさこい部

踊りがもたらしてくれた出会いは私たちの財産です

部長　学校教育学部総合学習系コース3年
森井裕子（もりいゆうこ）さん

よさこい部は部員37人。週2回活動しています。「チーム鬼灯」の名前で県内を中心にさまざまな地域の祭りやイベントに参加しています。老人ホームや幼稚園、保育園で踊ったり、小学校や中学校へよさこいを教えに行くこともあります。たくさんの人たちとの出会いやふれあいを大切にしながら、楽しく活動しています。

昨年11月には、大学学生表彰（文化芸術奨励賞）を受けました

ナポリにて。前列左から2人目が森井さん。

昨年は遠征も多く、北海道、静岡、鳥取、そして11月にはイタリアのナポリで開催された「ジャパンウィーク」という祭典に、3年前のトルコに引き続き12人の部員が参加しました。ナポリではよさこいを通して、たくさんの人々との出会いがあり、交流を深められました。また、現地の小学校を訪問し、子どもたちと一緒に踊ったり、折り紙でかぶとを作ったり、日本のおもちゃをプレゼントしたりしました。子どもたちはすごく興味を示し、目を輝かせながら楽しんでくれました。

ナポリの子どもたちとの出会いは私たちにとって大きな財産になりました。貴重な経験から得たものをこれからの活動、また教員をめざす上で大いに役立てていきたいと思います。鬼灯〜、そいやぁ〜!!

Campus（キャンパ）

News Flash 速報

兵庫教育大学の教員就職率が2年連続で全国第1位に

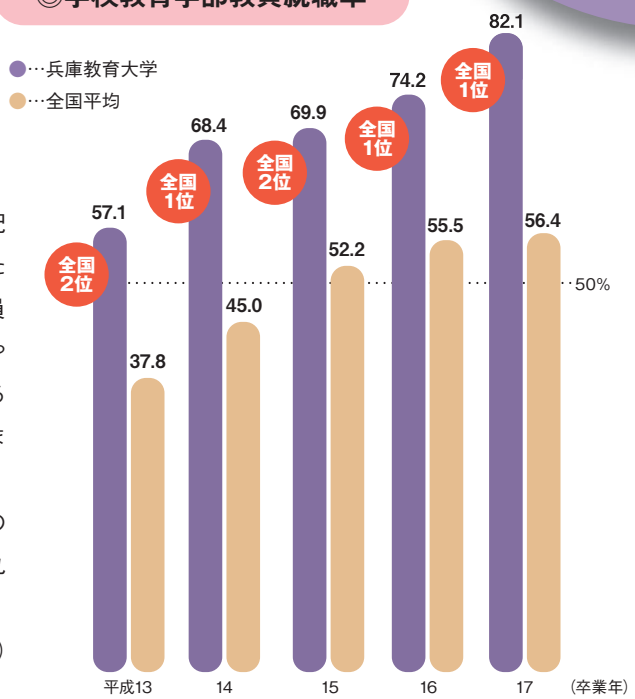
兵庫教育大学はここ数年、国立大学教員養成大学・学部（教員養成課程）の教員就職率ランキングでトップクラスを維持していますが、昨年3月卒業生の教員就職率（昨年9月30日現在）は前年を大きく上回る82.1%となり、2年連続で全国1位に輝きました。

過去には教員就職率が落ち込んだ時期がありましたが、平成9年に就職相談室を開設し、室長と学内外の相談員、事務職員を配置。国立大学が法人化となった一昨年4月には、クラス担当教員や研究指導教員も進路相談や指導助言などを行えるようにするなど、就職支援体制を整えてきました。

今後も、全学生が教員としての資質向上に取り組めるよう、一丸となって支援していきます。

（学生支援課就職相談室）

◎学校教育学部教員就職率



附属だより

名須川知子（なすかわともこ）
附属幼稚園園長

「子どもの学びを深める保育の創造」
―実践研究の構築をめざして―

「♪りすさんのつくったー、ちいさなケーキ」

附属幼稚園児全員の愛らしい声が大学の講堂いっぱいに広がります。昨秋も幼大連携の一環として、大学祭〝嬉望祭〟に参加しました。このような行事や保育の背景には、日々の教育研究の蓄積が生かされています。

附属幼稚園では「子どもの学びを深める保育の創造」を掲げ、主に4つの研究プロジェクトに取り組んでいます。

まず、日々の保育研究として「一人一人の幼児が友達と共に充実感を味わって遊ぶための保育環境を考える」をテーマに、子どもが充実感を感じられる保育環境の在り方を検討しています。各教員が日ごろから保育研究を実施し、その成果を年3回の公開研究会で提案しています。大学教員の指導、助言を受けながら、〝保育を開く〟ことで研さんに努めています。

子育て支援「きっずくらぶ」で園庭や遊戯室を開放

2つ目は、幼年教育講座と共同で進めている子育て支援研究です。保護者が子育ての楽しさを実感できるよう、保育や園外行事への参加を呼び掛けたり、「にこにこ子育て講演会」を開いたりしています。また、地域の未就園児に対して園庭開放もしています。各活動の前には入念に打ち合わせを行い、終われば反省会を開いています。

3つ目の幼小連携教育研究は平成12年度に始めて以来、人間関係における幼稚園と小学校教員の捉え方の相違と共通点の確認や、遊びを通した総合的な指導の評価を中心に行ってきました。今年度は、これまでの研究成果をカリキュラムに組み入れ、幼小中連携の基盤研究になることをめざしています。

4つ目は、幼児期にふさわしい英語との出合いについての研究として、主に5歳児を対象に「英語で遊ぼう!」を実施しています。自然な遊びの中で日常の言語とは異なる語感のリズムや響きを身体で感じ、新しい言語感覚の芽生えを培うことを目的に、学校教育研究センターと共同で取り組んでいます。

いずれの研究も日々の保育を対象とした「実践研究」として計画、実施、検討を行い、その成果を幼稚園教育に反映することはもちろん、広く提言していくことをめざしています。大学からの研究支援助成金に感謝しつつ、来年度は外部資金を獲得できればと考えています。

「英語で遊ぼう!」

附属幼稚園
設立年…1980年
教育目標
●健康な体の子ども
●やさしく豊かな心を持つ子ども
●よく考えて最後までやりぬく子ども
園児数…125人
※18年度から3年保育は1クラス（20人）増えます。

学生の派遣を通して 不登校支援施設や学校との連携、協力を深める 「NANAっくす（学生参加による不登校支援ネットワーク）」がスタート

「NANAっくす」のパンフレット

小・中学校における不登校児童生徒は全国で12万人を超え、深刻な教育課題となっていることを受け、兵庫教育大学では平成17年度から「NANAっくす（学生参加による不登校支援ネットワーク）」の構築に着手しました。この取り組みは、主に兵庫県内の不登校支援施設と兵庫教育大学が連携、協力して、学生の参加型学習と研究活動を体系化するものです。

まず、不登校支援施設に学生をボランティアスタッフとして派遣。学生はそこで学んだことや活動内容などをフィールドリポートとしてまとめ、学内外に向けて継続的に発信していきます。次に、これらの活動を通して、コミュニケーションを活性化することで、支援施設同士、支援施設と大学との連携、協力を図ります。学生にとって不登校支援施設での活動は有意義な経験であり、教員としての実践的な資質を身に付けることが期待できます。

不登校支援施設の方々には、「NANAっくす」にご理解をいただき、ネットワークへの参加と学生ボランティアの受け入れにご協力をお願いします。

「NANAっくす」の詳細を知りたい方にはパンフレットをお送りします。

㊐NANAっくす活動室（不登校支援室）
山国地区……TEL0795·40·2245
嬉野台地区……TEL0795·44·2305
教育支援課……TEL0795·44·2042、2348
www.office.hyogo-u.ac.jp/nanacs/index.html

学生の就職や教員の研究活動などをサポートする2つの"部屋"を開設

●小学校教員養成プログラム支援室

昨年10月、小学校教員養成プログラム受講生の修学上の相談、教員就職のための支援や受講生相互の交流を促進するために開設しました。専門職員を配置し、受講生からの要望にフレキシブルに対応。毎週水曜には学外相談員による教員就職などに関する相談も実施しています。

●兵庫教育大学リエゾンオフィス

「大学・大学院における教員養成推進プログラム（教員養成GP）」に対応するため、昨年11月に開設。今後は、兵庫教育大学と教育現場を結ぶ中心的な役割を果たし、大学教員と実務家教員が協働して高度で実践的な教師教育プログラム（現代的な教育課題に対応した科目群、人材データバンクを活用した協働授業、事例研究、討論、現地調査、実習など）を組織的に開発・改善、実施する場となります。より高度な実践的指導力を持った教員の養成をめざします。

◎平成18年度第2次学生募集

☆大学院学校教育研究科（修士課程）

◎募集人員（25人）

▶学校教育学専攻		
スクールリーダーコース	昼間クラス	5人
▶教科・領域教育学専攻		
言語系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人
生活・健康系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
総合学習系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人

◎出願期間　2月13日㊊～17日㊎（必着）
◎試験日　3月11日㊏（筆記・口述）
◎合格者の発表　3月20日㊊16：00
※昼間クラスと夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。昼間は嬉野台キャンパス、夜間は主に大学院神戸サテライト（神戸市中央区）で開講します。
※言語系コースには国語分野と英語分野、自然系コースには数学分野と理科分野があります。
㊐入試課TEL0795・44・2067

◎平成18年度児童・生徒募集（2次）

☆附属小学校
◎募集人員　約20人
◎出願期間　2月13日㊊～15日㊌
◎面接日　2月20日㊊
◎選考結果発表および抽選日　2月22日㊌
㊐附属小学校事務室TEL0795・40・2218

☆附属中学校
◎募集人員　若干名
◎出願期間　2月13日㊊～15日㊌
◎面接日　2月17日㊎
◎選考結果発表および抽選日　2月20日㊊
㊐附属小学校事務室TEL0795・40・2218

◎学校カウンセリングルーム

「不登校」「いじめ」「非行」「進路・就学」「学習の問題」などに悩んでいる園児、児童生徒とその保護者や教師を対象に、カウンセラーが遊戯療法、箱庭療法などを通して相談に応じます。無料。
◎開設場所　教育・言語・社会棟5階512号室（嬉野台地区）
◎利用方法　予約制。電話かファクスで申し込みください。
㊐生徒指導講座TEL FAX0795・44・1100、1135
※担当者不在の場合は留守番電話に氏名・電話番号を入れるか、ファクスを送信してください。

◎学校なんでも相談室

「勉強（学習）の悩み」「友人関係の悩み」「不登校」「習慣や行動の悩み」など、学校生活にまつわるあらゆる相談に応じます。アドバイス、情報提供、コンサルテーション、専門家や専門機関の紹介などを通して、来談者と相談室員、専門家が話し合いながら解決方法を探っていきます。来室による面談、電話相談が中心ですが、メールでの応対、学校や家庭へ出張もします。無料。
◎開設場所　学校教育研究センター（山国地区）
◎利用方法　予約制。月曜～金曜の9：00～17：00に電話かファクス、メールで申し込みください。
㊐学校なんでも相談室TEL FAX0795・40・2277
kogawa@ceser.hyogo-u.ac.jp

◎北播磨地域学習フォーラム ～小学校における地域学習のいま、これから～

県北播磨県民局と共同で推進している地域貢献事業「北播磨地域学育成事業」の一環です。北播磨地域の小学校で取り組んでいる地域学習の発表と意見交換を通して、学校教育における地域学習の発展のための方策を探ります。入場無料。
◎開催日　2月15日㊌
◎時間　14：30 ～17：00
◎場所　小野市うるおい交流館エクラ
㊐ 兵庫教育大学地域交流推進センター TEL0795・44・2053、県北播磨県民局企画調整部 TEL079 5・42・8308

◎学部卒業演奏会

音楽コースの学生がそれぞれ専門の楽器で4年間の研究成果を披露します。入場無料。
◎開催日・時間　2月11日㊏・13：30～
◎場所　兵庫教育大学講堂
㊐芸術棟事務室TEL0795・44・2249
FAX0795・44・2259

◎兵庫教育大学美術展

学部卒業生、3年生、大学院生、附属幼稚園・小学校・中学校の児童生徒、大学教員による合同作品展。観覧無料。最終日にはギャラリートークも。
◎開催期間　3月8日㊌～12日㊐
◎時間　10：00～18：00（最終日は15：00まで）
◎場所　県立美術館原田の森ギャラリー（神戸市灘区）
㊐芸術棟事務室TEL0795・44・2249
FAX0795・44・2259

◎櫻井晨正教授退職記念「晨暉展」

櫻井晨正教授（芸術系教育講座）と卒業生、絵画教員の25人による作品展です。観覧無料。
◎開催期間　3月8日㊌～12日㊐
◎時間　10：00～18：00（最終日は16：00まで）
◎場所　県立美術館原田の森ギャラリー（神戸市灘区）
㊐芸術棟事務室TEL0795・44・2249
FAX0795・44・2259

◎「壁面からの文化発信ギャラリー」の設置

共通講義棟1階の壁面を活用し、ギャラリースペースを開設。日常の授業やサークルなどでの創造的文化活動の発表などを通して、梶田学長が掲げる「兵教大ルネッサンス」のビジョンの実現に向けて、大学全体の文化力を高揚していくねらいがあります。

編集後記

●誌面リニューアルから1年。教育についてのオピニオンリーダーとしての誌面づくりを心がけてきましたが、いかがでしょうか。今号では、平成19年度設置予定の「教職大学院」について、学長や各コースの代表者がその意義や展望を語り合いました。大学が変わりつつあることを実感しました。教育の最前線を走る大学の広報誌として、今後も最新の情報を伝えていきたいと思います。（は）
●平成19年度の設置に向けて準備が進む「兵庫教育大学教職大学院」について教育最前線で取り上げました。それと連動して、座談会も挿み込みました。今まさに教育現場で注目を集めているこの話題は、新構想大学である本学の使命そのものである専門性の高い教員の育成と資質向上のためのモデルとなるべく、全国の先頭を切って取り組んでいる大事業です。教育現場のみならず地域や保護者の皆様にもぜひ読んでいただきたいものです。教育子午線のバックナンバーはホームページhttp://www.hyogo-u.ac.jpでご覧いただけます。（に）

◎ご意見・ご感想を寄せられた方に

オリジナルステッカーをプレゼント!

『教育子午線』では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりをめざしています。はがきかメールで、住所、氏名、年齢、①『教育子午線』第10号の感想、②取り上げてほしい特集内容を記入してお送りください。ご意見・ご感想を寄せいただいた方にはオリジナルステッカーを進呈します。

●あて先：〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1
※3月20日からは、加東市下久米942-1になります。
兵庫教育大学企画課企画・広報チーム
TEL0795・44・2334 FAX0795・44・2009　office-koho-t@office.hyogo-u.ac.jp

教育子午線
Kyoiku-Shigosen
第10号　2006年2月発行
発行／兵庫教育大学 大学広報室
http://www.hyogo-u.ac.jp
編集協力／㈱神戸新聞マーケティングセンター

この印刷物は再生紙を使用しています。